

市民インタビュー 地域を訪ねて

9月定例議会の一般質問に、田沢湖病院の診療所化に関する質問が4議員から、秋田内陸線存続に関する質問が、地元議員一人から出された。特に田沢湖病院の診療所化については、地元住民の関心も高く議会傍聴者数はかつてないほど多かった。

議会広報委員会は2つの問題に焦点を当て、2班編成で地域に取材に訪れ、地元住民の生の声を聞き、議会審議に反映することを企画した。

「田沢湖病院問題」と「内陸線存・廃問題」を地域住民と語る！

特別企画により、沢田 沢小学校)において、9月23日市民インタビュー委員長を始め、高久、浦山、田口(喜)の4名で、田沢地区11名、生保内田沢交流センター(旧田地区5名の方々に取材した。



病院問題の取材(田沢交流センター)

取材のため一、田沢湖病院の診療所化について、新聞やマスコミが大きく取り上げていることをどのよう

に受けとめているか。二、救急病院に対する考え方。三、経営改善について。



どうする市立田沢湖病院

総務省に言われたからといって、「うのみ」にして進めていいのか。

入院ベットが空いているからといって診療所がいいのか。命を守る責任だ。

四、どのような地域医療を望んでいるか。以上4点についての設問である。

現在まで当局が示している方向性、議会での質疑の経過を述べ参加者の思いを発言してもらった。

もう一度住民参加で協議すべき

★H18年度から協議が進められているようだがどのようなメンバーで行われているか。H19年度には市民へ内容の報告があったのか。年々老人が増え老人が老人を介護する時代になり我々が病院を追い出されたらどこへ行けばいいのか。

★救急が無くなることで、観光客、修学旅行が減少する地域産業への影響も大きい。玉川温泉には病いの方が多く多額費用をかけて来ている。救急時は、角館、大曲、盛岡と遠方なので大変な思いでいる。田沢湖での救急再開を早期に望む。

★経営改善については、田沢湖病院を利用し皆さんで支えること、経費削減に努めること。

命が大切、ハート(心)で助けて
★角館病院と田沢湖病院の医師連携により田沢湖病院の救急を再開して欲しい。私は子どもと孫を交通事故で亡くしました、もう5分早かったら助かっていた命と思う。自分の子供を交通事故で亡くしてから気づいても遅い。ハート(心)で助けて。

列車時刻など不便だが、仕方なく乗車！

9月22日7時30分秋田内陸線角館駅に取材班5人が集まる。角館到着7時38分の列車で、高校生や通勤客そして病院通いと思われる人たちが列車から下りた。上松木内からの通勤客にインタビューをする。「自宅は内陸線の駅から1・5キロの道のりがあり、高橋生の子どもには列車時刻の関係から進めていない」。



内陸線車内での湯沢の女性にインタビュー

「列車の時刻にもっと工夫して欲しい」とと定期券は6ヶ月で10万円。1日券は1500円と料金にも不満がある」。「正直言つて自家用車で

の通勤が最も便利だが、仕方なく内陸線を利用している」。

駅前観光蔵やスタシオンを内陸線の営業拠点としたらどうか、と質問した。

「内陸線と観光課が陣

